

高齢者公益事業部

現下の最大の経営課題は人手不足である。職員の採用から育成、定着までを点ではなく、面として捉え包括的に強化することと、働きやすい職場を実現することによって人手不足解消に取り組む必要がある。働きやすい職場にするため、私たちがすべきことは「標準化」である。サービス、業務を標準化することで、職員間、施設間の連携が円滑にできる。ルール策定、マニュアル化、徹底したDX化（デジタル技術を活用し、業務改革等を推進すること）等によって改善を繰り返し、新たな課題に取り組み、変革と成長を続けたい。

経営の安定と持続性の確保では、宝塚エデンの園を除く直営各施設の入居率95%以上を目指す。他法人とも連携した大規模セミナー、個別見学会・相談会、広告出稿等を組み合わせた募集活動を継続する。直営施設、共同事業、受託事業間の募集活動での連携と協働を維持し、直営8施設の目標数値として、入居契約件数110件、入園金合計37億円を目標とする。収支に関しては、2025年4月に横浜エデンの園を除く直営施設の家賃（入居一時金）、浜名湖エデンの園、油壺エデンの園の食費、浦安エデンの園の管理費を改定する。物価高騰、人件費増を見据え収支均衡策を立案・実践して各施設の施設会計の健全な収支を維持し、事業部全体として税引前当期活動増減差額2千万円を目指す。また、将来に向けて持続可能な医療サービスの提供体制のあり方を検討する。自然災害、感染症のBCP（事業継続計画）に基づき全施設で実践的な訓練を継続し、BCPの実効性を高めることも重要な課題である。

人材採用では、地域の状況に応じた計画的効果的な活動を継続し、スピードと採用活動量を維持する。新規入職したパート職員の定着に課題があるため、職場での受入れ、支援体制を立案、実践し、定着を促進する。労働時間の適切な管理、有給休暇の取得促進は健康経営を推進するうえで継続的な課題である。働く職員のキャリアアップを支援するため施設間交換研修、聖隷の理念を継承するため役職候補者集合研修を実施する。

サービスに関しては、原理原則と根拠に基づき、全職員が安心安全なサービスを提供することを徹底する。標準化の柱として、ケアの記録マニュアルを整備する。また、入居契約、ケアプランの電子契約化を推進したい。リスク管理システムの効率性効果性を高めるため、外部の専門家の支援を得てシステム案を策定する。食事は、食材費の高騰に対応しつつ各施設で喫食率を高めるための具体策を実行すると同時に、安全な食事の提供のための体制作りを急務とする。接遇向上のため、外部の専門家による接遇研修を継続する。ノーリフトケアの推進や見守りシステムの活用等も含め、これらの取組みは事業部内に設置する生産性向上委員会で計画的に進める体制を整えたい。

宝塚エデンの園の建替え計画は2020年から始まり、いよいよ2025年度に着工する。2032年度まで続く大規模な建替えとなるが、関係者と協力し、職員一丸となって共に造り上げたい。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と永続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
 - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
 - (イ) 公益活動の実践
2. 経営の安定と永続性の確保
 - (ア) 直営施設の一般居室・介護居室の入居率向上
 - (イ) 直営施設の施設会計収支改善
 - (ウ) 医療サービス提供体制の検証
 - (エ) 防災対策の強化
3. 人材の採用・育成・定着の強化
 - (ア) 採用活動量の維持
 - (イ) 職場環境づくりによる離職の防止
 - (ウ) 職員のキャリアアップ
4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 標準化の推進
 - (イ) 虐待・不適切ケアの防止
 - (ウ) 感染症の拡大（集団感染）の防止
 - (エ) リスク対策の強化
 - (オ) 食事サービスの向上
 - (カ) 介護・看護の質を向上させる新たな取り組みの実践
 - (キ) 接遇の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
 - (ア) 新規施設開設の検討
 - (イ) 次世代技術の創造

【数値指標】（新規契約のみ）

2025 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 一番館	藤沢 二番館	合計
件 数	18 件	5 件	10 件	28 件	18 件	20 件	11 件	0 件	110 件
入居率	96.0%	75.2%	97.3%	95.0%	95.5	100%	99.5%	92.0%	91.9%

※月払プラン件数含む

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

地球温暖化が影響しているのか、2024年度は「危険な暑さ」と言われるほどの記録的高温や、大型台風による大雨など、各地で異常気象に苦しめられた。また、ここ数年の物価高騰や人件費の上昇が、経営に大きな影響を与えた。加えて、8月に「南海トラフ地震臨時情報」が初めて発表された際には、園内は職員も入居者も緊張感が高まり、日頃の備えの大切さを痛感する出来事だった。当園は自然災害や感染症発生に備えたBCP（事業継続計画）を作成しているが、その実効性を検証するための訓練や、感染症の大規模クラスターに備えた備蓄品の拡充は2025年度以降も必須であると同時に、マニュアルの更新を適宜行い、入居者の「安全・安心な暮らし」を支える体制の強化を図っていく。

2025年度は入居者と同様に職員にも選ばれる施設を構築していく必要がある。かねてより課題とされていた「2025年問題」は当園も無関係ではなく、医療・介護に携わる人材の確保は重要であり、そのためにも働きやすく長く働き続けられる職場作りを目指す。2024年に導入した「見守りシステム」の積極的活用や、ノーリフトケア（介助される入居者の動きや自立を考慮してリフトなどの福祉用具を積極的に活用し、介護する側と介護される側双方に安全で身体への負担を軽減するケアの手法）に則った移乗機器の導入、AIを使った「自動勤務表作成ソフト」の活用、インカムの更新等、現場の職員にメリットが大きいDX化を積極的に進める。

入居者へのサービスの向上は、これまでもトレーニングマシンの充実やパーソナルトレーニングの強化により、筋力低下予防や健康維持・増進に努めてきた。これらに加えて、「楽しさ」を前面に打ち出した行事企画の立案や、「スマホ教室」等生活の利便性を高める企画の充実も図りたい。もう一つの柱である「入居者のその人らしい生活を支える」という点においては、入居者の入居時から終末期までの情報を一元化し、入居者参加型のACP（人生会議）を丁寧に行って、入居者の「想い」を叶える、個別サービス向上に注力する。また、2024年から始まった4号館1階の改修工事により、完全個室でプライバシーを確保した一時介護室が完成することで、これまでよりもっと安心して豊かな療養環境の提供ができることを確信している。

経営面では、物価や人件費の高騰などに対して安定的な運営ができるようあらゆる面で対策を検討し、入居者と協力しながら乗り越えていける案を作成する。

公益事業としては、入居者と共に実施する地域の清掃活動や「花のリレープロジェクト」への参加、地元自治会との相互交流を深め、「地域に貢献する」を意識した活動の拡大を目指す。また、静岡県看護協会の看看連携を基盤とした地域包括ケア推進支援事業にも積極的に関わっていく。

【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします」

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したトータルヘルスケアの確立と実践
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる魅力的な職場づくり
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者と共に成長し続ける浜名湖エデンの園づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したトータルヘルスケアの確立と実践
 - (ア) 入居から終末期までの情報の一元化の推進
 - (イ) その人らしい生活につなげるための ACP の理解の促進
 - (ウ) サービスの質の検証と標準化
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる魅力的な職場づくり
 - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承
 - (イ) DX 化の定着と推進
 - (ウ) 多様な雇用形態の促進と活用
 - (エ) 自ら考え、行動できる人材の育成
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
 - (ア) 「事業運営計画」の全職員の理解と達成への参画
 - (イ) 時代に即した経営管理と入居率 96%の維持
 - (ウ) 専門性を発揮できる業務改善と職場・職種間の連携強化
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
 - (ア) BCP 訓練の継続と実効性の検証
 - (イ) 緊急時対応ができる職員の育成
 - (ウ) 全職員に対するコンプライアンス教育の強化
 - (エ) 安全・防災・防犯体制の強化に向けた設備の導入と活用
5. 入居者と共に成長し続ける浜名湖エデンの園づくり
 - (ア) 入居者に向けた健康維持・増進サービスの提案
 - (イ) 入居者と共に楽しめる園づくり
 - (ウ) 入居者の協力を得て、地域に貢献できる活動の拡大
 - (エ) 安心して過ごせる環境作りと情報提供

【数値指標】

2025 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数/総戸数	361 戸/372 戸		51 戸/57 戸		412 戸/429 戸		
入居者数/定員	443 名/455 名		53 名/64 名		496 名/519 名		
入 居 率	97.0%		89.5%		96.0%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	26 名	10 名	34 名	16 名	16 名	14 名	10 名	126 名

職員数（常勤換算）	135.6 名
サービス活動収益	954,700 千円

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2024 年度は、宝塚栄光園とともに開園 45 周年を迎え、4 月に合同での記念式典の挙行を皮切りに、これまでの歴史を振り返り、理念に立ち返りながら、これからのあるべき姿について考えることができた年度であった。

2025 年度は、建替え計画の実施予定年度である。準備工事、E 棟入居者の仮住まい先への引越し、E 棟解体の期間にあたる。安全を第一とすることはもとより、入居者の負担を最小限に抑える最善の方法で実施しながら、継続して不安・心配事を軽減するための取組を行っていく。

サービスを深化させるための取組として、引続き「全員コンシェルジュ」の浸透、情報発信の強化、データを活用したサービスの提供、そして職員の「働きがい」の追求を目指す。コミュニケーションの「質」を大切にすることを基盤に、業務の標準化による生産性の向上を図り、職員の体験価値を高めるための取組を実施したい。

物価や人件費などの高騰が、依然として施設運営に大きな影響を与えている。経営資源の活用状況を再点検し最大化を図るとともに、職員が一丸となり経営方針を実行し、各部署が年度計画を達成することで収支改善を図る。

2025 年は、阪神・淡路大震災から 30 年を迎える。頻発・激甚化が進んでいる自然災害に対しては、今一度防災体制を見直し、BCP（事業継続計画）に基づく実践的訓練を強化する。新型コロナウイルスなどの新たな感染症に対しても対応可能な体制を整える。また、昨今急増している特殊詐欺や強盗事件に対しても防犯対策の強化や啓発活動等を強化し、安全・安心を守っていく。

持続可能な社会・地域共生社会の実現に向けて、SDGs（持続可能な開発目標）としての活動を念頭に置き、WAC 事業（ふるさと 21 健康長寿のまちづくり事業）を中心に取り組んでいく。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者とともに 5 つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたいより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

【事業・運営計画】

1. 入居者満足度の向上
 - (ア) 入居者がどの職員にも相談できる「全員コンシェルジュ」の浸透
 - (イ) データを活用したサービスの提供
 - (ウ) 「食べたくなる」「健康になる」「ワクワクする」食事の提供
 - (エ) 情報発信の強化による安心の提供

(オ) 建替え工事に伴う負担や不安、心配事軽減への取組

2. 職員満足度の向上

(ア) 成長実感を高めるための取組

(イ) 職場・職員間の連携強化への取組

(ウ) 園全体での人材定着・確保への取組

(エ) 健康経営に関する取組

(オ) AI（人工知能）、ICT（情報通信技術）等の活用による業務効率化

3. 安定した経営基盤の確立

(ア) 経営資源を最大限に活用するための取組

(イ) 診療所運営の在り方の検討

(ウ) 建替え後を見据えた入居者募集活動の推進

4. 安全・安心な暮らしの提供

(ア) BCPに基づく実践的防災訓練及び感染症対応体制の強化

(イ) 行方不明・離園防止・不審者対応訓練の徹底

(ウ) 防災意識向上に向けた入居者への啓発活動の実施

(エ) 権利擁護教育の強化とリスク、苦情への迅速な対応

5. SDGs としての活動を念頭においた、地域における公益的な取組

(ア) WAC 事業の活性化

(イ) 地域貢献活動の推進

(ウ) サステナブル活動の推進

【数値指標】

2025 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	270 戸／358 戸		43 戸／50 戸		313 戸／408 戸			
入居者数／定員	311 名／501 名		43 名／50 名		354 名／551 名			
入 居 率	75.4%		86.0%		76.7%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	25 名	13 名	34 名	21 名	13 名	11 名	3 名	120 名
職員数(常勤換算)	132.2 名							
サービス活動収益	851,200 千円							

介護付有料老人ホーム 松山エデンの園

2024 年度は、新規契約 14 戸 15 名、入居率 95%以上を目指し、地域で終活アライアンス協定を結び他事業者と入居募集を兼ねたセミナーを積極的に行った。設備・環境面においてはカラオケルームの改修や共用部のトレーニング機器、ナースコールシステムの更新など行うことができた。また、コロナにより中止されていた山田地区住民、聖愛会と合同の防災訓練を再開し地域の方も参加してもらうことができた。

2025 年度は引き続き募集活動と速やかな改修工事を行い、入居率 95%以上を目指す。費用面では、人件費の増加が懸念されるため、テクノロジーの導入による生産性の向上と業務の標準化を意識し、ムダを無くすことで超過勤務の削減を図り収支改善に取り組む。

入居者へのサービス面では外部コンサルタントを活用した接遇研修の実施やノーリフトケアの推進により安心、安全なサービスが提供できる施設作りを行う。

人材採用、育成では採用後のフォローを丁寧に行い、パート職員の入職 1 年以内の離職率を 15% 以下とする。育成面では OJT や交換研修を計画的に実施しリーダーシップのとれる職員を増やしていきたい。

公益的な取り組みとしては、地域合同防災訓練や清掃活動等、ボトルキャップの寄付活動の継続と「古着で障がい者のサポート」事業に協力し地域貢献できる施設運営に努めていく。

【施設理念】 『 明るく楽しく共に輝いて生きる 』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福(しあわせ)づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の採用・育成・定着の強化
3. よりよいサービスの提供
4. 安心安全な施設環境づくり
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 入居募集と経営の安定

(ア) 入居率 95%以上を目指す。新規契約戸 10 戸 12 名

- ① 終活アライアンスとのセミナーを年 5 回開催する
- ② 居宅支援事業所と連携し、直接入居の契約に繋げる

(イ) 喫食率向上に向けた取り組みを 3 つ以上行う。目標朝 63% 昼 64% 夕 81%

(ウ) 契約会社、納入業者の見直しを行い経費の削減に努める

2. 人材の採用・育成・定着の強化

(ア) パート職員の入職1年以内の離職率15%以下を目指す

①入職後3か月間は月1回以上、職場長が面談を行い、6か月後は園長が面談を行う

(イ) 施設間交換研修を各課1名以上は行う

(ウ) 2か月に1回、『ケアを語る会』を行い、倫理観や介護観・看護観の醸成と不適切ケアを未然に防げる職場風土を作る

(エ) 役職者のメンタル不全、離職防止ため、カウンセリングを年1回以上は行う

3. よりよいサービスの提供

(ア) 各業務の標準化に向けて既存のマニュアルの整理と更新を行う

(イ) 外部コンサルタントを活用し接遇力の向上に向けた取り組みを行う

(ウ) ノーリフトケアの理解と実践

(エ) 認知症予防、閉じこもり予防に向けたデイ活動の場の環境整備と実施

(オ) 相互監査から見えた課題の整理と改善策の実施

(カ) 身体拘束、虐待、不適切ケアの防止に向けた研修を計画的に行う

4. 安心安全な施設環境づくり

(ア) 各種非常時・防災関連マニュアルの定期的な見直しと定期訓練の実施

(イ) 防災のしおりと防災備品の更新

(ウ) 感染症拡大の防止に向けた研修と実践的シミュレーションを計画的に行う

5. 地域における公益的な取組

(ア) 地域合同防災訓練の実施

(イ) 「古着で障がい者のサポート」事業を定期的に行う

【数値指標】 2025 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数	109 戸		33 戸		142 戸		
入居者数	129 名		35 名		164 名		
入 居 率	98.2%		94.3%		97.3%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	19 名	5 名	14 名	9 名	9 名	5 名	7 名	68 名

常勤換算職員数	52.7 名							
サービス活動収益	358,480 千円							

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2024年度は、園バス運行の変更、四季ごとの行事の開催、ICT導入の取り組み、医師の働き方改革への対応など、更なる一步を踏み出した一年となった。2025年度も前を向いた運営を行っていく中で、時代に即した変化に対応しながら、私たちの原点である施設理念に沿った、入居者一人一人のその人らしさを大切にしていきたい。また、2026年度の開園40周年に向けた準備をスタートする。入居者サービスは、サービスの標準化（エデンサービスの質を保つこと）を意識し、業務やマニュアルを見直してサービスの質を高めていく。2025年度もICT導入を積極的に行い、業務の効率化を図ったうえで捻出した時間で、入居者との関わりをより深めていきたい。食事サービスは、物価の高騰や喫食率の低下により厳しい運営となっているが、食事サービスの質を維持するための食費改定、食事メニューの工夫とアピールにより喫食率の向上につなげていきたい。継続的な課題である人材確保に対して、職員が働きやすい環境をつくりながら育成を促進し、自らが主体性をもち、スキルアップできる体制を強化し定着させたい。入居募集活動では、広告、セミナー、丁寧な個別見学を繰り返し、検討者数を増加させ、また退去後の改修工事の迅速な対応により入居率を維持する。2024年度同様、施設会計は厳しい状況が続くものと予測されるが、将来とも整った事業継続のため、しっかりとコスト意識を持ち、安定した経営を行っていきたい。公益的な取り組みとして、SDGs（持続可能な開発目標）を意識し、地球温暖化防止のための省力化への検討、地域イベントや活動への参加や協力を入居者と一緒に考えながら進めていきたい。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と　ここちよく　共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 人材の確保と定着
3. 安定した施設運営・経営
4. SDGsを意識した環境・省エネへの取り組み強化と地域における公益的な取り組み
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
 - (ア) 園全体でその人らしさを大切にしたサービスの提供
 - (イ) 入居者の健康寿命延伸と自立した生活維持のための支援
 - (ウ) 介護現場でのテクノロジー活用
 - (エ) 入居者参画型の取り組みの検討と実施
 - (オ) 食事メニューの工夫とアピール
 - (カ) 園バス運行の見直しと安定

- (キ) 再発防止のためのリスク対策、感染対策の継続
- (ク) 40周年に向けたプロジェクト開始

2. 人材の確保と定着

- (ア) 働きやすい職場環境づくりへの継続的な取り組み
- (イ) 職員間コミュニケーションと部署間連携の強化
- (ウ) ICTを活用した業務効率の向上
- (エ) 職員個々のキャリアアップへの支援
- (オ) 採用ホームページを活用した職員募集

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 年度末の入居率95%（期末）以上
- (イ) 食費の改定
- (ウ) 園内設備改修の計画と実施
- (エ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (オ) 職員へのコスト意識浸透とコスト管理の実行
- (カ) 診療所の安定した運営と今後の検討

4. SDGsを意識した環境・省エネへの取り組み強化と地域における公益的な取り組み

- (ア) 地球温暖化防止のための省エネルギーへの取り組み
- (イ) 地域貢献活動への参加
- (ウ) 地域のイベント参加と協力

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 自然災害のBCPに基づく実践的防災訓練の実施、見直しの継続
- (イ) 入居者・職員の防災意識と行動の向上
- (ウ) 地域と連携した災害協力体制の維持

【数値指標】

2025 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	363 戸／379 戸	40 戸／45 戸	403 戸／424 戸
入居者数／定員	449 名／500 名	41 名／50 名	490 名／550 名
入 居 率	95.8%	88.9%	95.0%

要介護 認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	19 名	23 名	42 名	14 名	14 名	16 名	11 名	139 名

職員数(常勤換算)	138.0 名
サービス活動収益	1,153,350 千円

介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園

2024年度は、イベントの再開と新たな介護予防プログラムを開始し、長く続いたコロナ禍の影響を受けた心身の不活発な状態の改善に努めた。2025年度も引き続き介護予防活動の更なる充実に努めていく。既に実施している音楽プログラムに音楽療法的要素を取り入れ、自立期から要介護認定者まで幅広く参加できる仕組み作りを進める。減少したコミュニケーションの場の一つとして入居者が集える活動を増やしていきたい。また、リニューアルを実施したレストランについては、安全で美味しい食事提供に努めることは当然であるが、加えて、食事の提供場所にとどまらない居心地の良い空間づくりにも取り組みたい。イベントの開催や茶話会の会場とするなど、新たなコミュニケーションの場としても活用の幅を広げていく。介護サービスの面では、介護の充実につながる新たなテクノロジー導入に積極的に取り組む。入居者の安心安全を担保する介護機器の導入が、同時に採用困難な看護介護などの採用、離職防止にもつながるため、今後もテクノロジーを積極的に導入し、サービスの質向上を図る。職員採用では、予測される人材不足を視野に入れ、多様な働き方に対応するための業務の標準化を実施する。また、質の高いサービス提供に向けて、施設内外の研修に積極的に参加を促し、専門性の向上のための支援を行う。災害時のリスク対策や感染症予防対策は今後も重要と認識しており、BCP（事業継続計画）に基づく実践的訓練の実施と定期的な備蓄等の見直しを行う。経営面では、続く物価高騰に対応するため2025年4月より管理費改定を行う。今後も人件費や、物価の変動を注視し、経費削減を強化し経営改善に努め、安定した施設経営を行っていく。施設理念である『ご入居者を真ん中においた生活の創造』を念頭に置き、接遇力の向上を目指して入居者に寄り添える職員の育成に努める。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追求
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取り組み

【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追求
 - (ア) 一人ひとりに寄り添ったサービスの提供
 - (イ) 入居者ニーズに合わせた柔軟な業務改善
 - (ウ) テクノロジーを利用したサービスの標準化
 - (エ) 健康長寿を支える余暇活動や介護予防活動の充実

2. 働きがいのある職場風土の醸成

- (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
- (イ) コンプライアンス教育の強化
- (ウ) 人材育成の取組みにより組織の質向上を図る
- (エ) ワークライフバランスを尊重した職場づくり
- (オ) 健康経営の推進

3. 安心・安全な施設づくり

- (ア) BCP を生かしサービス提供を継続する体制の強化
- (イ) リスクマネジメント強化
- (ウ) コンプライアンスを遵守する体制の強化
- (エ) 建物、設備の計画的な修繕及び更新

4. 安定した施設経営の実現

- (ア) 入居率 95%の達成
- (イ) 安定した収益の確保
- (ウ) 経費節減の取組み
- (エ) 安定した人材の確保

5. 地域における公益的取り組み

- (ア) 地域との交流を深める取組みの実施
- (イ) SDGs（持続可能な開発目標）を意識した取組みの実施

【数値指標】

2025 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	189 戸	25 戸	214 戸
入居者数	228 名	26 名	254 名
入 居 率	96.9%	86.2%	95.5%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	12 名	14 名	18 名	9 名	6 名	7 名	6 名	72 名

職員数(常勤換算)	69.5 名
サービス活動収益	484,060 千円

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2024年度は、聖隷横浜病院で実施しているオンライン診療を導入し、入居者の通院負担の軽減や待ち時間の減少につながった。サービス提供において介護テクノロジー等を導入しサービスの質を保ちつつ各職員がアイデアを出しながら積極的に業務改善を行えたのは大きな成果であった。

2025年度は、開設15周年を迎える節目の年であり改めて横浜エデンの園の強み、価値、役割を見つめ直し、入居者・職員にとって意義ある取組みを実践していきたい。特にケア実践や人材育成においては、聖隷横浜病院と連携を図り入居者のみならず職員にとっても横浜エデンの園に在ることの安心感につながる取組みを行っていく。また積極的に介護テクノロジーを活用し、創意工夫しながらケアを実践するとともに、ケアサービスの標準化・適正化にも注力する。

人材の採用においては、今後も人材を確保するのが困難な状況は続くと予想され、さまざまな働き方、能力など多様性に対応した受入れ体制や育成のあり方を見直し、定着を目指す。

入居者募集では、入居率向上を目指して横浜エデンの園の強みをアピールするために各職員と入居者や家族が参画する募集活動を行っていく。今後、退居された入居者の家族や地域の方々とのつながりを、より大切にして信頼される施設づくりを目指していきたい。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出会えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1. 「自分らしく暮らし続けられる」ことを支えるためのケアの推進
2. 働きがい重視した人材の採用・育成体制の構築
3. 経営基盤の安定と持続性の確保を図る
4. サービスの創造と業務改善の推進
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 「自分らしく暮らし続けられる」ことを支えるためのケアの推進
 - (ア) 介護ロボット・科学的介護情報システム(LIFE)データを活用したケア実践とアウトカム評価を推進する
 - (イ) 入居から最期のときまで安心した生活を実現できる医療連携体制を再構築する
 - (ウ) 最期のときまで「好きなものを食べられる」口腔機能の維持を推進する
 - (エ) ノーリフトケアを推進する
 - (オ) 入居者個人の暮らしと価値に着目したリスクマネジメントを実践する

2. 働きがいを重視した人材の採用・育成体制の構築

- (ア) 専門職としてのやりがいに着目した介護キャリアパスモデルに基づく育成に取り組む
- (イ) さまざまな働き方、能力など多様性に対する受入れ体制を整備する
- (ウ) 働き続けたいと思える職場環境を作る（有休取得率の向上、作業環境、休息環境の整備）
- (エ) 次世代リーダーを対象にした育成に注力する

3. 経営基盤の安定と持続性の確保を図る

- (ア) 入居率 95%以上を維持する
- (イ) 園の強みをアピールするために職員・入居者・家族が参画する募集活動を実施する
- (ウ) 感染症・自然災害に関する BCP に基づいた実践的な訓練を実施する
- (エ) 生産性向上推進体制加算Ⅰを算定するための基盤づくりを行う

4. サービスの創造と業務改善の推進

- (ア) 介護テクノロジー導入プロセスを確立する
- (イ) 移動・移乗、排泄介助に関する介護テクノロジーを導入する
- (ウ) 再加熱カートの導入と効果的・効率的な運用を行う
- (エ) ペーパーレスシステムを導入する
- (オ) タイムスタディを用いたケアサービスの適正化と介護度の見直しを図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域防災連携を構築する
- (イ) 聖隷横浜病院と協同し地域における病院・施設の役割をアピールできる機会を持つ
- (ウ) 15 周年イベントを開催する

【数値指標】

2025 年度期末

	2024 年度 3 月末	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	計
契約戸数	46 戸/50 戸	49.0 戸/50 戸	50 戸/50 戸
入居率	92%	98%	100%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	1 名	2 名	7 名	10 名	10 名	9 名	10 名	49 名

職員数(常勤換算)	46.7 名
サービス活動収益	282,000 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

聖隷藤沢ウェルフェアタウンは2025年に開設15年目を迎える。2024年度は診療報酬と介護報酬の同時改定、コロナ禍を経たライフスタイルの変化、水道光熱費や食材費等の高騰、深刻な人材不足と人件費の上昇など施設を取り巻く環境が大きく変化した。さらに2025年問題を踏まえ、当施設が末永く安定した施設運営を継続させ、選ばれる施設となるためには、この環境の変化に柔軟に対応していくことが必要である。

2025年度は、ウェルフェアタウン版の地域包括ケアシステムの構築をさらに進めていくことで、複合施設ならではの施設全体が連携したシームレスなサービスの提供を目指す。また、安心・安全なサービスを提供できるように第三者機関による評価を進め、安心して長く暮らしていただけるように環境整備を行っていく。職員に関しては、DX（デジタルトランスフォーメーション：以下DX）の導入を促進させ、職員が働きやすい職場環境を整備する。さらに職員の定着に向けた業務の標準化、成長できる職場環境づくりを行うことでやりがいをもって働ける職員の育成を図る。地域に向けては、複合施設の特徴を活かし、地域のニーズに応えられるように、特別養護老人ホーム・在宅サービス事業所を中心に役割を果たすことで選ばれる施設を目指して取り組んでいく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1. より良いサービスの追求
2. 安心・安全の施設づくり
3. 安定した施設運営と持続性の確保
4. 人材確保と職員育成の強化
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. より良いサービスの追求
 - (ア) ウェルフェアタウン版の地域包括ケアサービスの実践
 - (イ) 各事業所の役割や特性をお互いに理解し、連携することでトータルサービスを目指す
 - (ウ) DX化の推進をすることで業務効率化、見える化、働き方改革につなげ、利用者サービスの質向上を目指す
2. 安心・安全の施設づくり
 - (ア) 業務の標準化を図ることで安心・安全なサービスを提供する
 - (イ) 災害・防犯等の有事に対応できる職員の育成およびマニュアルの見直し
 - (ウ) 職員向けの教育および働く環境を整備して不適切ケアに対する意識を強化する

3. 安定した施設運営と持続性の確保

- (ア) 複合施設としての強みを活かした利用者ニーズへの対応
- (イ) 物価高騰を踏まえた対策の検討と事業運営の見直し
- (ウ) 計画的な設備更新と環境整備
- (エ) 利用者のサービス向上につながる適切な加算の取得
- (オ) 有事における事業継続のため、主に聖隷関東地区の施設間連携を強化する

4. 人材確保と職員育成の強化

- (ア) 仕事のやりがいを感じられる魅力ある職場づくりを目指す
- (イ) DX の推進および業務改善を図ることで働きやすい職場環境を作り、職員の定着を図る
- (ウ) 業務改善を行い、超過勤務時間削減および有給休暇の取得促進を図る
- (エ) 次世代を担う職員の計画的な研修の実施

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 藤沢市フードバンク活動等の SDGs を意識した取り組みの継続
- (イ) 災害時における地域との連携強化
- (ウ) 地域の福祉施設・事業所との連携を進め、地域ニーズに対応できる体制を検討する

【藤沢エデンの園 一番館】

入居者が、一番館で長く心豊かな生活を送ることができるようにシームレスなサービスの提供を目指す。また、職員個々が知識や技術を高めることで安心安全なサービス・入居者一人ひとりに寄り添ったサービスの提供を目指す。

1. より良いサービスの追求
2. 安心・安全の施設づくり
3. 安定した施設運営と持続性の確保
4. 人材確保と職員育成の強化

(数値指標)

2025 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	208 戸／209 戸	—	208 戸／209 戸
入居者数	258 名	—	257 名
入居率	99.5%	—	99.5%
職員数(常勤換算)	53.6 名		
サービス活動収益	426,720 千円		

【藤沢エデンの園 二番館】

次世代介護機器を積極的に導入・活用を促進させ、「働きやすく」・「多様な人材が活躍できる」職場環境を構築する。また、ノーリフトケア®や業務の標準化を推進することで、安心・安全なサービスの提供を実践していく。

1. 業務の標準化を図り、安心して安全なサービスを提供する
2. 職員が働きやすい職場環境の構築
3. DX を推進し、質の高いサービスを提供する

(数値指標)

2025 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	—	46 戸／50 戸	46 戸／50 戸
入居者数	—	46 名	46 名
入居率	—	92.0%	92.0%

要介護認 定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	0 名	0.5 名	7.5 名	7.8 名	15.8 名	9.2 名	4.5 名	45.3 名

職員数(常勤換算)	40.1 名
サービス活動収益	214,290 千円

【藤沢愛光園】

2025 年度は業務の標準化を図り、入居者に安心・安全・安楽な介護の提供を目指す。また、見守りシステムを中心に DX の推進およびノーリフトケア®を活用することで働きやすい職場を作る。さらに地域ニーズに応えられるように在宅サービス事業所との連携を強化する。

1. 業務の標準化を図り、安心・安全・安楽な暮らしの提供
2. 職員が働きやすい環境づくり
3. 経営の安定化

(数値指標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100 床	20 床
利用者延べ人数	35,770 人	6,680 人
営業日数	365 日	365 日
一日平均利用者数	98.0 人	18.3 人
稼働率	98.0%	91.5%
単価（1 人 1 日あたり）	16,206 円	15,677 円
サービス活動収益	579,710 千円	104,720 千円
職員数（常勤換算）	63.7 人	15.4 人

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

2025 年度は、より個別性の高い機能訓練の提供に向けて、ICT を機能評価等に活用しながら疾患に合う運動機能訓練や認知機能の低下予防など様々なプログラムを作成する。また、様々なニーズに対応できるよう各部署や地域の事業所との連携を強化していく。

(数値指標)

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	22.8 件	586.3 件	7,036.1 件	9.0 件	108 件	11,411 円	42,188 円	
半日	3.3 件	85.0 件	1,020.3 件	—	—	6,930 円	—	91,400 千円

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

地域の利用者・一番館入居者が住み慣れた環境で長く生活し重度化しないよう、適切なケアマネジメント手法を活用しながら個々のスキル向上を行い、質の高いケアマネジメントを実践する。地域活動を通じ課題抽出をしながら、包括ケアシステムの窓口としての役割を担える事業所を目指す。

(数値指標)

年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,928 件	654 件	17,000 円	4,100 円	111 件	4,500 円	35,960 千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

利用者が自宅での生活が継続できるよう、他部署との連携を図りながらサービスを提供する。質の高いサービスが提供できるよう職員の採用、育成を図る。今後の事業体制を検討し、地域や藤沢エデンの園一番館の入居者一人ひとりが安心して自分らしく、住み慣れた環境での生活が継続できるよう努める。

(数値指標)

介護給付		総合事業		障害	
月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数
453 件	5,438 件	115 件	1,380 件	280 件	3,364 件

単価			サービス活動収益
介護給付(回)	総合事業(月)	障害(回)	
4,500 円	22,000 円	4,200 円	48,200 千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

利用者・家族が望む藤沢エデンの園一番館や在宅での生活が継続できるよう、安心安全なケアを提供する。多様なニーズに応えられるよう、施設内外の連携や人材育成の強化を行う。災害対策・ICT 対応を行いながら、安定経営を目指す。

(数値指標)

月平均利用者数	月平均訪問数	年間訪問件数	単価(円)	サービス活動収益
128 名	781 件	9,373 件	9,231 円	86,700 千円

ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2025 年度は各事業において物価高騰に加え、数年継続見込みの人件費上昇と収益頭打ちによる収支ギャップを念頭に管理費の見直しなど持続可能な経営基盤の確立のための対策が課題となる。

トータルケアサービスの実践においては、開園 33 年を経過し顕在化した課題※を解決に導く具体的な取り組みをより深化・拡大させていく。

ケアサービスの核に置くべきパーソン・センタード・ケアの概念を再認識し、入居者、利用者が抱く“不安”に思いを巡らし、「その人らしさに寄り添う」取り組みを実践する。

エデン包括ケアシステム「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」の具現化のため引き続き、組織、ハード、ソフトにおける独自の優位性の確立を目指す。

有料老人ホームでは「フィジオスタジオ ステップ」の開設により積極的介護予防の展開が可能になった。クリニックとの連携による潜在的特定高齢者の抽出運用を確立し、自立～要介護までをシームレスに対応できるリハビリ環境はゼロ次予防の整備にもつながると考えている。

そのほか、入居者との日常接点頻度の可視化、看取り・緩和ケア強化をふまえた終末期を支える体制の充実、人生会議（手帳）の推進、介護居室の増室、在宅事務所の改修・増築などに取り組み、さらには遠隔診療システム、日常で身に着けることのできる端末を活用した付加的な健康管理サービスなど決定的な優位性の獲得を目指し検討する。

ICT 化、設備整備においては導入自体が目的化することがないように留意しつつ、安全性向上と効率化の両輪で推進し、その効果を利用者の個別ケア時間の創出をもって評価基準とする。

また、クリニック、バテルホーム、在宅事業の相互連携は年々強固になりつつあり、レスパイト入院の拡大など複合施設の強みをより発揮することや、利用者個々のニーズに寄り添った付加サービス提供の検討は、超高齢化が急速にすすむ地域の社会資源強化として、経営はもとより住民、行政にも貢献する WAC 本来かつ「三方良し」の取り組みでもあり、引き続き模索していく。

職員教育においても、そのような複合施設の強みを認識、発揮できるよう交換研修を推進する。また変化に強い風土醸成に不可欠な心理的安全性の向上に取り組み、個々の強みの承認とともに「自分たちはいつでも変わることができる」というグロースマインドセットへと導いていく。

虐待・不適切ケア防止においては、引き続き「虐待・不適切ケア 0 ミッション」を推進する。「絶対に許してはいけない」という組織としての覚悟とともに、「利用者の尊厳を守る」ことに立ち返り、基本的な接遇と敬語の徹底、互いに指摘し合える風土形成に職員全員が取り組む。

また、利用者、職員双方を守るために必要な設備整備も合わせて検討する。

地域貢献において、2020 年より継続している小学校児童の下校見守りを継続するとともに、「小 1 の壁」など地域の社会課題への解決に寄与するための新たな取り組みにも着手する。

喫緊の課題である永続性のある職員採用スキームにおいては、外国人留学生への奨学金適用の実現にむけ法人本部との連携をすすめる。またスポットワークなど社会的ニーズに対応したツールを柔軟に活用することも必要である。同時に、定着支援スキーム構築も不可欠であり、実施中の採用後定期モニタリングや退職者ヒアリングの成果を定着支援企画へとつなげたい。国籍、年齢、障がい等に捉われない多様性を受容できる価値観を引き続き組織として育んでいく。

直面する大きな社会課題を乗り越えるため、WAC 施設としての機能を時代に合わせて最適化することが入居者、利用者の幸せと職員のやりがいにつながり、それがウェル・エイジングとしての優位性の確立、選ばれる施設になることを信じ、継続性のある取り組みを実践していきたい。

- ※①入居者・利用者の孤立防止 ④コア業務継承をふまえた採用・育成計画
②身元引受人等の高齢化への対応 ⑤WAC 施設機能の時代に合わせた最適化
③介護保険サービスの狭間の解消 ⑥選ばれる施設であるための優位性の確立

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

- (ア) パーソン・センタード・ケアの実践
- (イ) エデン包括ケアシステム「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」推進
- (ウ) 積極的介護予防の推進と園内ゼロ次予防体制の整備
- (エ) 終末期の幸福度を支える緩和ケア、看取り体制の強化
- (オ) 食べる楽しみの追及と食堂の満足度向上
- (カ) SDGs の活動を念頭に置いた取組み

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 複合施設だからこそできる、入居者・利用者・患者・地域ニーズへの対応
- (イ) 諸物価・人件費の継続的な高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し
- (ウ) 防災・防犯対策および自然災害における BCP（事業継続計画）に基づく実践対応能力の強化
- (エ) 選ばれる施設であるための計画的な設備更新と環境整備
- (オ) コア業務継承をふまえた計画的な人材採用と教育（育成期間・ローテーション）

3. 人財の育成・活用・定着の強化

- (ア) 採用力と定着率向上への取組み（留学生奨学金適用、定着支援評価・企画）
- (イ) 多様性を受容する職場風土づくりの推進（ジェンダーレス・スポットワーク）
- (ウ) 職場の魅力・強みを語ることが出来る職員の育成
- (エ) 交換研修の実施職場 100%と職場への成果還元、専門研修受講、資格の取得支援
- (オ) 職員の心理的安全性への取組み

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 不適切ケアの防止のための基本的接遇（挨拶・敬語）の徹底
- (イ) 利用者の尊厳を守るための身体拘束、虐待防止への取組みの継続
- (ウ) 感染症発生時 BCP（事業継続計画）に基づく実践力強化による集団感染防止
- (エ) Pm-SHELL 活用によるリスク分析力向上と効果測定による再発事故防止
- (オ) 個別ケア時間創出につなげる ICT 導入（個別ケア時間＝評価指標）

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) WAC 施設としての地域支援事業への継続的な参画（シェアサイクル・こども 110 番の家）
- (イ) 地域との災害時の協力体制強化
- (ウ) 地域貢献・交流と地域の社会課題解決に向けた活動（児童見守り・小 1 の壁・認知症講座）

◆ 有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2024 年 12 月 1 日現在において、入居契約件数 386 戸（一般居室 339 戸、介護居室 47 戸）入居率は 93.7%（一般居室 93.6%、介護居室 94.0%）、入居者の平均年齢は全体で 82.7 歳である。

2025 年度は物価全般の高騰はもとより、頭打ちの収益と継続して増加する人件費をふまえ、持続可能な運営のため根本的対策の検討が必要である。

「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」はパーソン・センタード・ケアの理念の下、エデン包括ケアシステムとして入居者との日常接点頻度の可視化や人生会議開催の推進を継続する。またフィジオスタジオステップではクリニックとの連携により潜在的な特定高齢者へのアプローチ力を強化し、積極的介護予防の展開・推進にも寄与すると考える。

また、緩和ケアの強化をふまえた終末期ケアの充実により独自の優位性の確立を目指す。

職員教育においては、引き続き複合施設の強みを発揮できる職員の育成を目指し、職場間の交換研修を推進する。また、虐待防止においては入居者の尊厳を守ることにあためて立ち返り、基本的な接遇強化、特に敬語の使用を徹底し風土醸成に努めると共に必要な設備整備を検討する。

不確実な情勢を乗り越えるために組織として ICT 化、外国人・障がい者雇用といった多様性受容と変化への適応力が求められている。引き続き“変化に強い組織づくり”のために取り組みと職員の心理的安全性を強化する。

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

- (ア) 人生会議に対する理解の促進と、パーソン・センタード・ケアの実践
- (イ) エデン包括ケアシステム「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」推進
- (ウ) 潜在的特定高齢者の抽出運用の確立と積極的介護予防の展開による ADL 維持・向上
- (エ) 終末期の幸福度を支える緩和ケア、看取りの強化
- (オ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり
- (カ) 食事をトータルで楽しむ企画・運営と満足度向上と喫食率 0.5%UP（6 食/日、2 人/各食）
- (キ) SDGs を念頭においた取り組み

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 諸物価・人件費の継続的な高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し
- (イ) 適切な住み替えによる安心・安全なサービスの提供
- (ウ) 実質入居率 100%を目指した入居募集活動への各職場間の横断的な取り組みの強化
- (エ) 防災・防犯対策および自然災害における BCP(事業継続計画)に基づく職員の実践力向上
- (オ) “住んでみたい”と思える空間作りと修繕・設備整備

3. 人財の育成・活用・定着の強化

- (ア) 多様な働き方に対応した採用・定着向上への取り組み
- (イ) 障がい者・外国人など多様性を受容する職場風土づくり
- (ウ) 職場の魅力・強みを語ることが出来る職員の育成
- (エ) 交換研修等の 100%実施と職場への成果還元
- (オ) 職員の心理的安全性への取り組み

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 不適切ケアの防止のための基本的接遇（挨拶・敬語）の徹底
- (イ) 身体拘束、虐待防止への取り組み
- (ウ) 感染症発生時 BCP（事業継続計画）に基づく実践力強化による集団感染防止
- (エ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止
- (オ) 個別ケア時間創出につなげる ICT 導入の推進（個別ケア時間＝評価指標）

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) WAC 施設としての地域支援事業への継続的な参画（シェアサイクル・こども 110 番の家）
- (イ) 地域との災害時の協力体制強化
- (ウ) 地域貢献・交流と地域の社会課題解決に向けた活動（児童見守り・小 1 の壁・認知症講座）

【数値指標】

2025 年度期末

	一般居室			介護居室			計	
契約戸数	345 戸			48 戸			393 戸	
入居者数	462 名			48 名			510 名	
入 居 率	95.3%			96.0%			95.4%	
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	20.4 名	27.7 名	23.3 名	19.9 名	17.9 名	17.0 名	9.8 名	136.0 名
職員数(常勤換算)	107.6 名						※有料老人ホーム部分	

◆ 高齢者総合福祉センター

2024 年度をもって最終講座の開催となった古代学講座に代わり、新規講師を招聘し「考古学講座」を開講。地域を含め、多くの参加者があった。また、大ホールイベントは収容人数を 180 名に設定し、感染症対策に十分に配慮した上で開催。150 名以上の地域参加者を招く事ができた。

2025 年度は、著名な方を招待した大ホール講演企画を予定。哲学講座やポーセラーツ講座など、新規講座開講を進めている。大ホールイベントは地域密着型で開催し、多くの人が興味を抱くような様々なジャンルの演者・演目を招聘し内容の充実を図る。

◆ ニッセイ聖隷クリニック

2024 年度は、電子カルテを導入し安定稼働に繋げた。診療報酬改定では新規加算取得に努め、7 月からは第 2 種協定指定医療機関の指定を受け外来感染対策向上加算の算定を開始した。入院は積極的にレスパイト入院の受入れを行った。健診はご入居者の定期健康診査に認知機能検査と骨密度測定を追加し、健康管理向上に努めた。

2025 年度は、入院は緩和ケアチーム強化により安心して最期を迎えられる体制整備を行う。また引続き在宅部門と連携し、レスパイト入院の受入れを行う。外来では地域患者の高齢化に伴い送迎サービス、地域への講座など、患者数減少に歯止めをかける対策を検討する。健診は DM やキャンペーンの活用による受診者数確保に努める。

◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2024 年度は介護報酬改定により基本報酬だけではなく、各種加算や減算要件の改定が行われた。それらを精査し算定可能な加算の取得に努め、減算要件をクリアすることで入所単価を引き上げることができた。また、見守りシステムプロジェクトチームが中心となって職員向け操作研修や運用方法の検討を行い、11 月より夜間帯の訪室回数を試行的に削減するなど、システム活用による利用者の安心・安全と業務改善の両立に向けた取り組みを開始することができた。

2025 年度は、地域や利用者ニーズに柔軟に応える体制を強化し、安定した経営の継続に取り組む。また、見守りシステムの運用を確立させ、業務負担の軽減やヒヤリハット・転落事故件数の減少、ケアの質向上を目指したい。さらに、課題となっている人材確保、育成、定着に向けて、期間限定での派遣職員の導入、次世代を担う人材の育成、やりがい感を持てる職場づくりにも注力し安定した現場運営の実現を目指す。

◆ ニッセイせいいい在宅介護サービスセンター ベル西大和店

2024 年度は介護報酬のマイナス改定、身体ケアを担うヘルパー不足の影響で収益確保が厳しい中、介護保険外のケアや有料、ベテルへの応援派遣に努めたが予算未達となった。

2025 年度は、ヘルパー不足の解消と、ICT 活用による業務負担軽減と効率化に取り組む。また、河合町内で数少ない訪問介護事業所として、住民が住み慣れた場所で安心して過ごしてもらえるよう他事業所と連携しながら役割を果たしていく。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2024 年度は必要な職員数を揃え、重症・頻回訪問に対応できる体制の基礎を整備することができた、短期集中型の訪問依頼に対し迅速な対応ができ訪問件数増加に繋がった。

2025 年度は、まず職員の定着・育成に重点を置く。各種研修に参加し専門性を高め地域での信頼を獲得し、職員の負担軽減・手当充実・働き方に囚われない平等な教育機会の整備に取り組む。

◆ ニッセイせいいいケアプランセンター西大和

2024 年度は、要介護の新規相談件数が増えず、収益に繋がっていない。逆に、要支援者の新規件数は増加したが、今年度の介護報酬改定で取り扱い件数が 1/3 となり、ケアプラン数は未達となった。新規依頼は、継続的にあり、2025 年度も保険者と協働した BCP の訓練の実施や、多職種との協働で、様々なケースと向き合い超高齢社会の課題に取り組む。

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

施設の中長期的な維持・発展の基盤を創っていくため、人材確保・育成とともにプロセスで質を担保する仕組みの定着を図っていく。これらを基礎として業務の可視化と情報発信を進めることで、相互理解を深め、入居者も職員も尊重されていると感じる園づくりを進めていく。特に2025年度は次の3点について重点的に取り組む。

第一に防犯セキュリティの強化に取り組む。高齢者宅を狙った強盗事件が関東一円で相次ぎ、入居者は不安を感じる方が多い。園の防犯セキュリティについて対策を進める。

第二に情報発信の充実を図る。類似施設との競争も激しくなっており、付設診療所や介護体制の内容など、園での生活をイメージして当園の強みが伝わるような広報を展開していく。

第三に物品管理体制の再構築を進める。購買・在庫管理について管理方法を検証して、欠品・余剰のない適正な物品管理の仕組みを再構築し、コスト削減にも波及させたい。

諸物価の急上昇、人材採用難など厳しい環境に対応しつつ、入居者に安心安全な生活を提供できるよう施設理念の実現を目指し、ブランド力を活かせる施設となるように努めていく。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”とと思っていただけるような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 安定的な経営基盤の維持
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取り組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネへの取り組み強化

【事業・運営計画】

◆ 有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

顧客の視点「入居者も職員も尊重され、ここを選んで良かったと思える」

- ・ 安心安全で便利と感じる生活環境の提供
- ・ 園での生活（働きぶり）がイメージできる情報の提供
- ・ 適正価格での購入と欠品・余剰のない在庫管理の実現
- ・ 品位ある園の雰囲気の継承（接遇やハラスメントへの理解促進等）
- ・ 働きやすい職場環境（パート採用増、超勤削減などの成果）

業務プロセスの視点「業務の可視化と情報発信を行う」

- ・防犯セキュリティ体制を強化した運用の確立
- ・業務の可視化（言語化・数値化）による広報材料の発掘と業務改善
- ・ブランディング、相互理解促進のための情報発信（外部向け/内部向け）の定期実施
- ・適正な購買・在庫管理ルール運用
- ・入居者サービス向上、職場環境向上のための改善活動、諸運用の見直し
- ・防災体制の充実、不適切ケア、食中毒などリスクへの対応の再確認
- ・諸物価の上昇、人材採用難への対応
- ・大規模改修工事の安全でスムーズな実施

学習と成長の視点「計画的な人材確保・育成とプロセスで質を担保する仕組みの習熟」

- ・防犯セキュリティ体制の検討と動線の改善、設備整備
- ・定期的な情報発信のための役割分担とルール設定
- ・購買・在庫管理ルール他施設調査と運用ルールの設定
- ・採用媒体の選定やホームページの充実と採用成果の検証
- ・QMSの推進（EQCの発展と5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）の定着）
- ・大規模改修（生活サービスセンター、別館外壁）による老朽化対策の実施

財務の視点「持続可能な経営構造」

- ・収支構造改善への取組と予算達成

地域における公益的な取組

- ・コンサートや文化講座、健康増進施設等の地域住民の利用
- ・松戸市との災害避難所協定の継続
- ・地域清掃活動や松戸市社会福祉協議会とのフードバンク活動

【数値指標】

2025年度期末

	一 般 居 室	介 護 居 室	計
契約戸数	301戸	40戸	341戸
入居者数	386名	42名	428名
入 居 率	95.6%	93.0%	95.3%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	22名	18名	23名	17名	5名	15名	8名	108名

職員数(常勤換算)	113.13名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

◆ 診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

当クリニックは有料老人ホーム入居者にとって、かかりつけの有床診療所として、24時間、身近に適切な医療が提供できることが強みである。2025年度も強みを伸ばすように医療の質をさらに高めるように努める。外来、入院、リハビリ、健診機能等に加え、認知症や看取りの対応、地域や入居者に向けた転倒予防教室などの医療情報啓発活動や、長期にわたり予防から終末期まで患者、入居者に寄り添う、当クリニックらしい伴走型医療の提供をしていく。

感染症対策については近隣急性期病院との連携体制をとり、感染対策への訪問指導や合同訓練の参加などの取組ができた。引き続いて発熱外来など地域住民にも貢献しつつ、クリニックと有料老人ホームが密接に連携し、感染症へ備える体制を整備していく。

看取りへの支援を強化しつつ、外来・入院等の増患を図るとともに、地域包括ケアシステム的一端を担うクリニックとして外部医療機関との良好な関係性を維持し、スムーズな入退院を通じて地域医療に貢献していく。

また、災害時対応やサイバーセキュリティなど危機対応能力の向上を図っていく。

定期的な研修や外部セミナーへの参加、ハラスメント防止の取組などにより、職員の成長と働きやすさを支援し、同時に5S 活動や適正な在庫管理などの経営改善を進め持続的な経営体制を構築していく。

【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 医療・看護サービスの充実

- (ア) 各課と連携した退院支援・退院調整の実践
- (イ) 看取り・ターミナルケアの質向上
- (ウ) 定期健診結果や情報発信からの受診勧奨推進
- (エ) 外来・入院診療の感染対策の実践
- (オ) 高齢者に対する権利擁護の実践

2. 人材育成と連携

- (ア) 専門職としての接遇・知識・技術向上の推進
- (イ) 外部研修参加と近隣医療機関との合同研修参加の推進
- (ウ) ハラスメント・心理的安全性を意識した働きやすい職場風土の醸成

3. 経営基盤の安定

- (ア) 病床稼働率80%の維持
- (イ) 健康経営推進と超勤削減対前年5%
- (ウ) 新たな算定への情報収集と漏れのない請求業務の実践
- (エ) 指定病院との連携継続

4. リスク管理体制の強化

- (ア) 施設内 I/A（インシデント/アクシデント）および警鐘事例に対する再発防止策の遵守と予防策の再検討と実践
- (イ) 高齢者および認知症患者の理解と対応の推進
- (ウ) サイバーセキュリティ・災害・感染 BCP（事業継続計画）の検証と実践

【数値指標】

診療部門

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	54.0名	5,450円	243日
入院部門	15.0名	14,000円	365日

検診部門

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	810名	48名
職員検診	148名	

◆ 高齢者総合福祉センター「ニッセイ松戸アカデミー」

2024年度は、コンサートのバリエーションを豊富にしたことで参加者数を増やすことができた。また、入居者自身が舞台に立つことや入居者が運営に関わるコンサートも開催し、入居者の生きがいがづくりに貢献できた。2025年度も引き続き、教室やイベント運営を通して、入居者および地域住民の生きがいがづくり、仲間づくりに貢献していく。

1. 生きがいがづくりや仲間づくりを促進する、魅力ある教室やイベントの運営
2. 地域住民の、教室・イベント参加や別館の施設利用を促す仕掛けづくり
(地域住民への積極的なサービスの解放)
3. 魅力ある教室・イベント運営による入居者募集への貢献

◆ ニッセイエデンヘルパーステーション

2024年度は、見取り介護に携わることで特定事業所加算Ⅲを4月から取得することができた。しかし特定事業所加算Ⅲの要件である看取り件数が不安定であることから、2025年度は特定事業所加算Ⅲを有資格者の充実度から特定事業所加算Ⅱに変更する。2024年度から進めてきたデジタル化を継続し業務改善をすることで、本来のサービス提供責任者としての業務である介護過程の質の向上に取り組み、地域に貢献できる訪問介護ステーションを目指す。

1. 事業継続に向けた新体制の構築
2. 認知症、看取りに特化し質の向上
3. 他課との連携による入居者へのサービス継続

【数値指標】

	利用者数	単価
介護給付・障害者支援（日平均）	23.0名	5,000円
予防給付（月利用者数）	20.0名	19,000円
有償（入居者）サービス（月利用者数）	15.0名	7,000円

営業日数＝310日（月平均26日）

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2024年度は、改めて施設全体としてサービスの在り方について見つめなおす機会となった。職員においては不安や心配を抱えながら、また欠員が続く中でも真摯に業務に向かってくれたことに感謝するとともに、今後新しい明日見のサービスを構築していくために、職場環境の整備と併せて知識の向上、意識の向上に取り組み、サービスの質を高めていかななくてはならない。業務の標準化を通して働きやすい職場作りを目指していく。

また入居者募集業務については、東京都住宅供給公社の協力を得て開催した合同セミナーや、高齢者公益事業部入居者募集センターをはじめ、他施設の力を借りながら開催した『ふらっと見学会』、『5 法人セミナー』など積極的に行った。

2025 年度は更に多くの入居契約を獲得するために、『ふらっと見学会』はもちろん、聖隷・公社の保有顧客を再度見直し、募集活動を強化していく。また、入居検討者に興味を持っていただけるようなセミナーを企画・開催し、新規顧客の開拓に努める。

もう一つの課題となっている食堂運営は、新たな業者に変更後、未だ入居者からは食事に関する課題のご意見が多く寄せられている。メニューの見直しだけに留まらず様々な方向から改善を検討し、より多くの入居者に安心してご利用いただけるよう全力で取り組む。

入居者が安心してお過ごしいただくための設備である防犯カメラ・見守りシステムについては、早期に導入できるよう公社にもご理解とご協力をいただきながら検討をすすめていく。

地域における公益的な取り組みとして、南大沢地区で開催される行事や、地域自治体主催の清掃活動、防災訓練など各方面への協力体制は継続していく。2025 年度は地域との結びつきを更に強くしていくことも踏まえ、次の事業・運営計画を実践していく。

【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と聖隷福祉事業団が連携した施設運営

【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア) 誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり
 - (イ) 生活利便サービスの更なる向上
 - (ウ) 入居前からシームレスな情報活用の仕組みづくり
 - (エ) 時代に合った福祉用具・ICT 機器導入と運用の確立

(オ) 食事サービス向上の推進

2. 人材の育成

(ア) 理念・ビジョンを継承する次世代の採用・育成と専門性の追求

(イ) 入居者個々に合わせた接遇の実践

(ウ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

(エ) 長く働く事ができる環境の整備

3. 地域との交流・協力関係づくりと公益的な取り組み

(ア) 行事等を通じて地域に開かれた施設づくりの実践

(イ) 地域貢献活動への積極的な参画

(ウ) 入居者と共同・協働による SDGs の実践

4. 防災・防犯対策の確立

(ア) 災害時における近隣企業との協力体制の構築

(イ) 行方不明・離脱防止・不審者対応の更なる強化

(ウ) 自然災害・感染に関する BCP（事業継続計画）に基づいた訓練の実施

5. 入居者募集

(ア) 入居検討時から全職員参加型の募集活動の実践

(イ) 入居検討者目線で企画するセミナー・イベントの継続開催

(ウ) 東京都住宅供給公社・高齢者公益事業部・各直営施設と連携し効果的な広報活動の実践

【数値指標】

2025 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数/総戸数	230 戸/317 戸		40 戸/53 戸		270 戸/370 戸		
入居者数/定員	253 名/429 名		40 名/53 名		293 名/482 名		
入 居 率	72.6%		75.5%		73.0%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	23.0 名	18.0 名	37.0 名	23.0 名	9.0 名	10.0 名	8.0 名	128.0 名

職員数（常勤換算）	113.0 名
サービス活動収益 ※	116,880 千円

※クリニック南大沢施設診療所のみ